

# 浦和宿 たてもの 30

浦和宿とその周辺の歴史を重ねた、たてもの 30 をリストにしました。

記号	たてもの名	年代	特徴
1	元伊勢屋	昭和9年	石井桃子ゆかりの店。出桁造りの商家で、一階の軒にも出桁を見ることができます。
2	元はま屋	大正12年	典型的な出桁造りの平屋の町屋です。正面は四間半の間口で、二間スパンで中央に柱が一本立っています。
3	名倉商店	明治23年	りっぱな鬼瓦が特徴的で、棟部分などが漆喰で固められている土蔵造りです。店舗の天井に見られるの木組みも見事。
4	元綿貫商店蔵	明治45年	母屋は「浦和くらしの博物館民家園」に移築されましたが、大谷石の倉が残っています。
5	常盤屋酒店	大正13年	関東大震災で東京から移ってきて、柳屋染物店から購入したそうです。二軒続きの店舗を半分にして残っています。
6	あまぐり屋・元弁当一二三	明治24年	一つの建物を二つの店として使っているようです。街路からは、平屋の屋根の頂が少し望める程度です。
7	渡辺建具店	明治20年?	典型的な明治の町屋建築。平屋が当時の浦和宿の典型でした。裏に、二階建ての居住部分がひかえています。
8	光妙堂神佛具店	大正15年	いわゆる看板建築的な外装をまとっていますが、隣地から、建設当時の姿の一部を伺うことができます。
9	古要家	明治23年	狭い間口に奥行きが長い、典型的な町屋。明治21年の大火後の建築で、保存状態も良好な上、北側が市場通りに面して建築群の全貌が見えるので、浦和宿の空間を今に伝える貴重な存在です。物置は書類上明治5年となっています。
10	いずみや酒店倉庫		二階建ての商家。酒店の表札と、菓の木製袖看板がかかっています。軒を支える金物にも、時代を感じます。
11	床屋イシイ		店舗の街路側はタイルと木製建具による美しい立面構成です。床屋さんのシンボル、サインポールも一見の価値あり。
12	稻荷湯		立派な屋根を載せた銭湯です。傍らに、公衆浴場組合で尽力された、丸山健吉氏の胸像がたてられています。
13	三代目満作		昭和の雰囲気たっぷりの煎餅屋さんです。間口いっぱいのガラス戸越しに、手焼きの様子が伝わってきます。
14	夢工房、クールヴェルジュ	昭和初期	ふたつの店舗による、長屋形式の出桁造りの町屋です。かつての姿を生かしながら、リフォームされています。
15	大熊家	昭和2～4年	間口四間半の二階建ての町屋。風格のある出桁造りで、裏門通りの景観上、なくてはならない建物です。
16	鈴木写真館		大正6年創業で、昭和4年に改修された貴重な洋館。外観にちりばめられた装飾、内部の造りなど、見事です。
17	玉蔵院山門、地藏堂	江戸時代中頃	浦和宿中心部に位置する古刹です。本堂は元禄14年(1701)、地藏堂は安永9年(1780)と伝えられています。多くの文化財を有し、枝垂桜でも有名です。また山門は江戸時代後期の四脚門です。
18	マサキヤ、森となかまたち	昭和初期	県庁通りが浦和駅前まで抜けた昭和初期に建てられた、「かんぱん建築」の並びです。森となかまたちは、2017年9月に解体されました。
19	シンドウ電気	明治末	「かんぱん建築」の町屋が二棟並んでいましたが、東の一棟が無くなって、屋根の造りが見えるようになりました。
20	埼玉会館	昭和41年	ル・コルビュジエの弟子、前川國男設計、都市にオープンスペースをつくる提案をした市民ホールの際作です。「鳳翔閣」「旧埼玉会館」と時代とともに建て替わり、この場所は、浦和の建築文化の最先端でありつづけてきました。
21	蒲焼中村家	昭和	鰻の街でもある浦和。多くの鰻屋さんのなかでも、ここは昭和の雰囲気そのままに伝る、出桁造りの店舗です。
22	割烹千代田の蔵		表から一本西に入った通り添いでいい佇まいを残していましたが、マンションを建築中。大谷石の倉が残されています。
23	文寿堂原田表具店	明治末期	間口三間二階建ての出桁造り、経師屋さんのお店です。勝海舟が店の名前を付けたと伝えられています。
24a	青山茶舗	明治初期	出桁造りの店舗。創業は江戸末期と伝えられています。材は施主が職人と大宮の山で選んだとのこと。階段の手すりは庭のさるすべりを使用。浦和宿中心部に比べ建物の密度が低く、浦和宿全体の環境を考える目安としても貴重です。
24b	楽風と民家	楽風は明治24年	お茶屋さんの納屋を改装した日本茶喫茶・ギャラリーと、住まい、庭も含め、環境全体が残されていてほっとします。
25	床屋セキネ	昭和始め	木造のモダン建築は築80年以上経っています。Sekineの赤いサインはモダンなグラフィックアートのようなのです。
26	調神社		玉蔵院とともに、浦和という街の礎を成す延喜式内社です。現在の本殿(安政6年)以前の旧本殿(享保18年・市指定有形文化財建造物)は、稻荷社として祀られていましたが、最近修復工事を終え、いにしへの風格が蘇りました。
27	調医院	昭和2年	関東大震災で東京から移って来た、住まいと蔵。かつての産婦人科医院です。
28	元製あん所青木		マンションの谷間になってしまった敷地に、母屋・工場・倉庫・煙突・防空壕・庭園などが残る稀有な空間。
29	起志乃天神社社殿	昭和3年	旧浦和尋常高等小学校(現高砂小学校)の奉安殿で、昭和21年6月、現地に移築されたものです。
30	関元屋商店	大正初期	出桁造り。宿の境に杭が立っていました。江戸時代井戸の水を飲ませて馬を休ませたそうです。明治の蔵は解体。